

電子決裁システム「KadaSign/カダサイン」

谷崎 勇太¹ 六車 俊紀¹ 近嵐 匠^{1,2} 浅木森 浩樹^{1,2} 油谷 知岐¹ 末廣 紀史¹ 武田 啓之¹
米谷 雄介¹ 山田 哲^{1,2} 八重樫 理人¹

¹ 香川大学情報化推進統合拠点DX推進研究センター ² 株式会社リコー

1. はじめに

- ・ 香川大学では、幸町キャンパスの学長室でしか決裁がおこなえない
- ・ 紙の原議書では「確認」の意図での押印も数多くおこなわれており、「決裁」以外の要素が多分に含まれる
- ・ 決裁のルートは起案者が過去の慣例や経験によって決定しており、明確なルールが存在しない
- ・ 起案者は自身の起案の決裁状況（誰が確認中なのか等）を確認したいが紙の原議書では決裁状況を即座に確認することが困難である

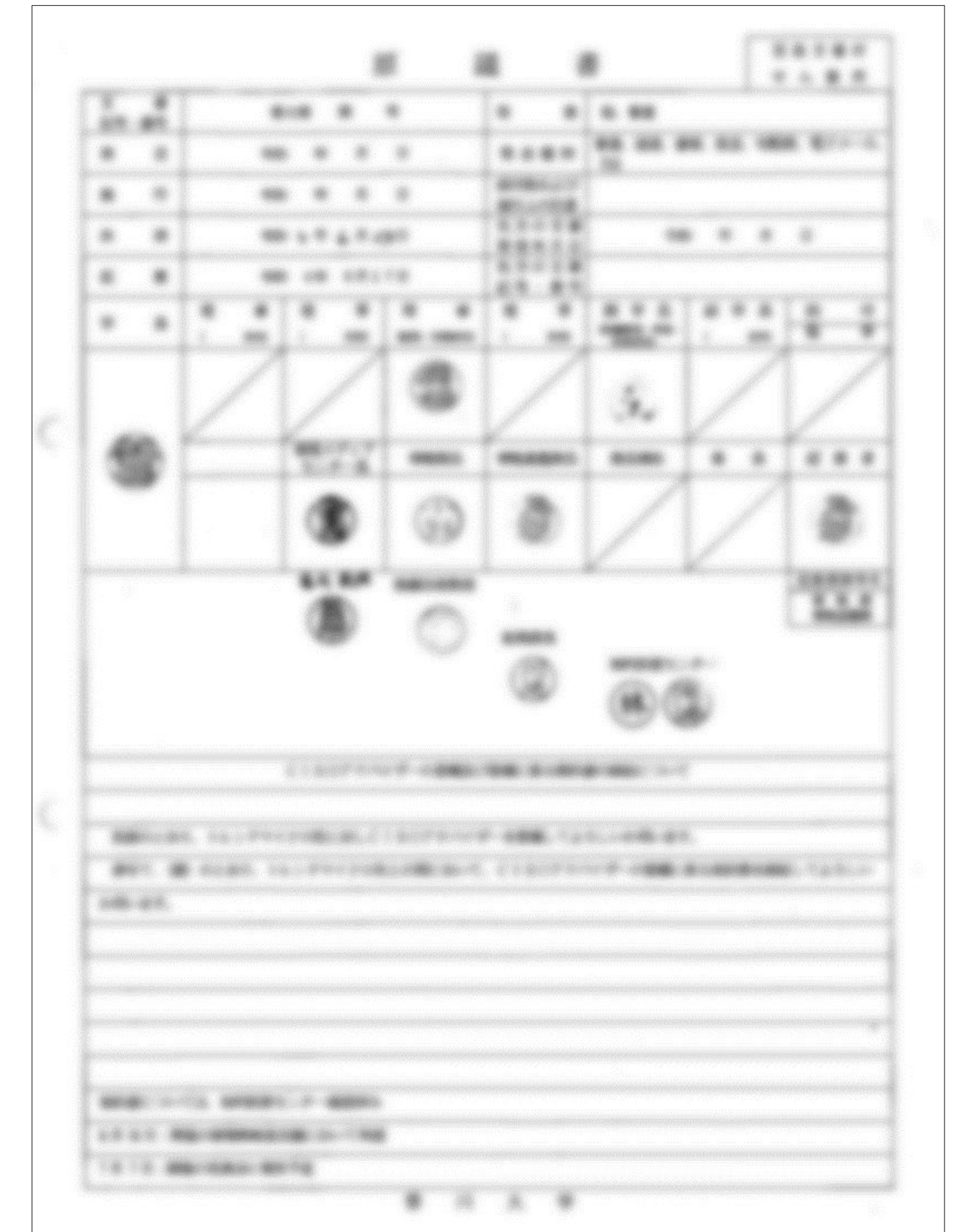


図 紙の原議書

2. 電子決裁システム「KadaSign/カダサイン」

- ① 起案者がアプリに必要事項を入力し、起案をおこなう
 - ② 審査者に確認の依頼がおこなわれ、審査者はアプリで確認をおこなう
 - ③ 決裁者に決裁の依頼がおこなわれ、決裁者はアプリで決裁をおこなう
 - ④ 起案者、審査者に決裁結果が通知される
 - ⑤ 決裁に関するデータはデータベースに保存される
- ※ 起案者は決裁状況をアプリから確認可能

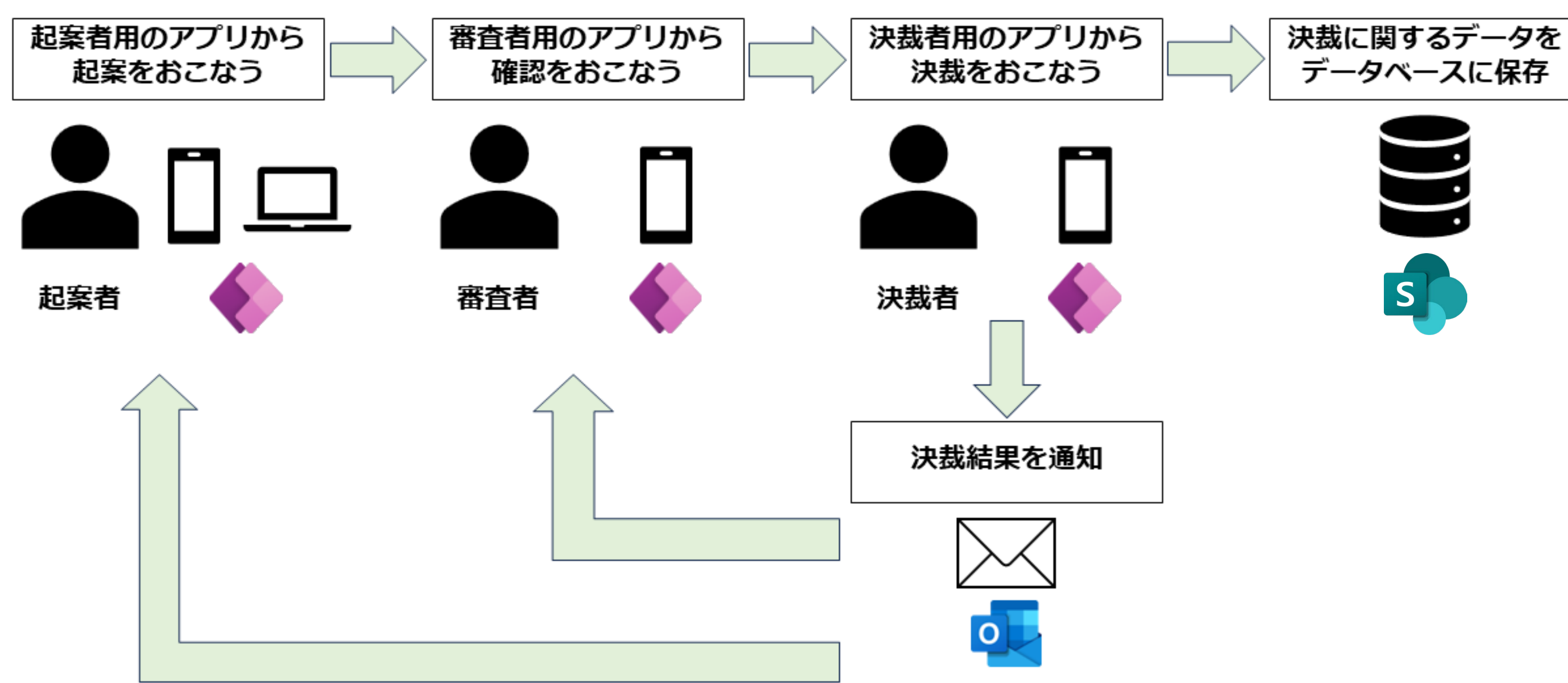


図 電子決裁システム「KadaSign/カダサイン」の動作



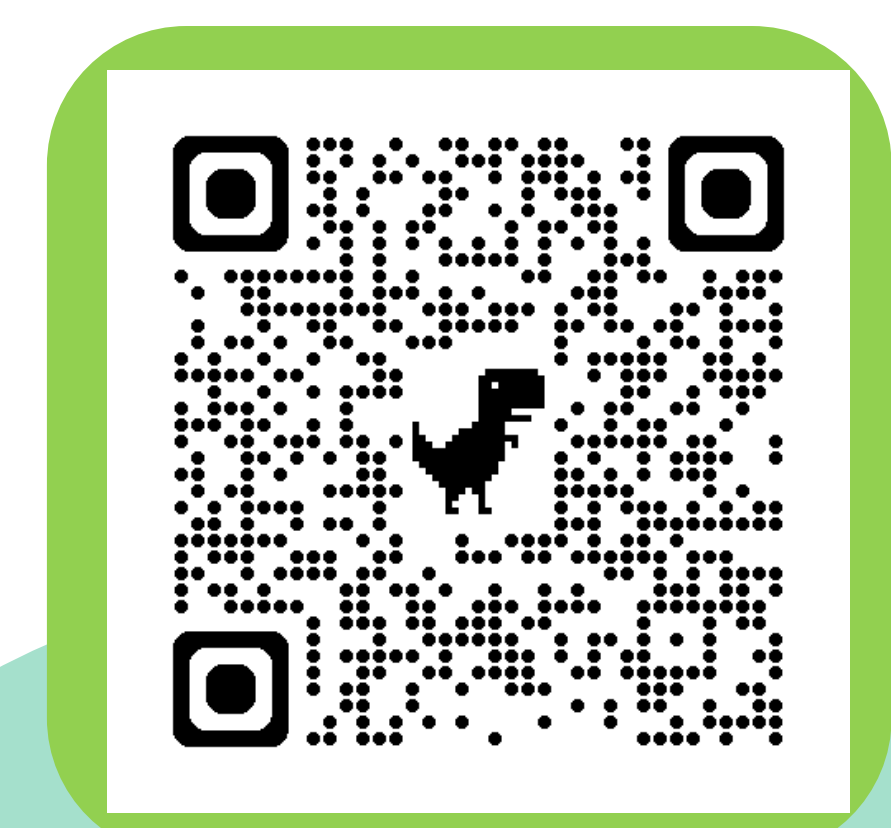
図 電子決裁システム「KadaSign/カダサイン」の画面

3. 他機関でのシステム再利用に向けたSharePoint版の開発

- ・ 香川大学DXラボは内製開発したシステムを他機関が再利用できるようにソリューションカタログで配布している
- ・ 香川大学で実運用された「KadaSign/カダサイン」は、データを格納するために有償のDataverseを利用していた
- ・ データベースをSharePointに変更したことにより、Dataverseのライセンスを持たない組織でも使用可能になった
- ・ Dataverse版にはなかった却下された申請の再申請を行える機能を追加したことで、再申請時の負担を軽くした

4. まとめ

- ・ カダサインによって生成されたデータを分析することで、決裁業務の効率化につながることを期待される
- ・ Dataverseのライセンスが必要でなくなったことで、より多くの組織で使用できるようになった
- ・ 決済の承認をどこでも行えるという審査者と決裁者の負担軽減だけでなく、再申請機能の追加により再申請時における起案者の負担を軽減されることが期待される



電子決裁システム
「KadaSign/カダサイン」のQRコード
(ソリューションカタログ)